

## 大きなけやきの木の下で 絵本のはなしをしましょうよ。



2022年 10月の初め こまばようちえん

みなさま、こんにちは！ 季節は秋の真ん中へと向かって動いています。少しずつ少しずつ、けやきの葉の色が変化をし、ハラハラと散り始めます。

私の町の神社は今年、3年ぶりに秋祭りを行います。けれども、残念ながら、まだ子どもたちが山車を引いたり、御神輿をかついだりすることはできません。秋祭りは秋の収穫を神様に感謝し、来年の豊作を願う大切な行事です。かすかに聞こえてくるお囃子を聞きながら、秋の実りに感謝しておいしくいただこうと思います。

今回は杉本園長先生が、「大人の方へ」で本を紹介してくださいました！

では、大きなけやきの木の下で、絵本のはなしをいたしましょう。

須藤麻江 近藤千春（本の部屋の先生）

・絵本はざっくりと次のように対象年齢にそって紹介していきます。ただ対象年齢はあくまで目安です。お子さんが興味を示した絵本、お子さんに読んであげたいと思った絵本を見つけたら、手にとってみてください。

- ① たんぽぽ組・年少組のみなさんに②年中・年長組のみなさんに③大人のみなさんに
- ・「重版未定」の絵本も積極的に取り上げます。図書館に入っていますし、リクエストが多くなると復刻される可能性もあります。
  - ・紹介した絵本は重版未定も含めて藤井チズ子前理事長からいただいた寄附金で極力入し、本の部屋に入れます。藤色のテープが目印です。

① たんぽぽ組・年少組のみなさんに。



「いらっしゃい」



「14ひきのあきまつり」



「わらべうたであそびましょ!」



「のりものあれあれ絵本」

① 年中組・年長組のみなさんに。



「ロバくんののみみ」



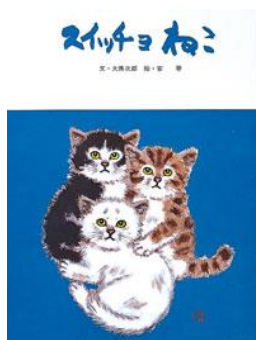
「いっしょならもっといい」



「うみのおばけオーリー」



「スイッチョねこ」絵・朝倉撰



「スイッチョねこ」絵・安泰 (画家さんが違います)

② 大人のみなさんに。



「ともだちは海のにおい」

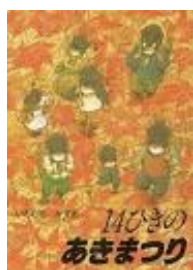


「きはなんにもいわないの」



「あおのじかん」

① たんぽぽ組・年少組のみなさんに。



● 『いらっしゃい』

せなけいこ・作 童心社 990円/2019年

せなけいこさんのはり絵は、シンプルでユーモラス。「いらっしゃい、いらっしゃい。なにやさん？」の問いかけの後、ページをめくると、「やおやさん！」「さかなやさん！」「ようぶくやさん！」・・・とさまざまなお店が登場します。こどもたちはお店やさんごっこが、大好きです。幼稚園でも「いらっしゃい。おいしいお寿司ですよ」「ジュースやさんですよ」とさまざまなお店が開店します。「いくらですか？」と聞くと、「ただです」と言ってくれたりして。親切な「こまば商店街」の店主さんたちです。（須藤）

● 『14ひきのあきまつり』

いわむらかずお・作 童心社 1430円/1992年

おなじみ「14ひきのねずみ」シリーズの一冊です。秋の森。お父さんたちが木の実をとりに行っている間におばあちゃんと子どもたちはかくれんぼ。でも、ろっくんが見つからない。さあ、大変。クリタケに聞いたら、なんと、クリタケたちが動き出し、カエルやらどんぐりやらも加わって、わっしょい、わっしょい、せいや、せいやとあきまつりが始まりました。秋の森の土の匂いがぷんぷん匂ってきて、豊かな実りを感じさせてくれる絵本です。ろっくんも見つかるので安心して下さいね。（須藤）

●『わらべうたであそびましょ!』

さいとう ののぶ 編・絵 (のら書店) 2013年/1430円

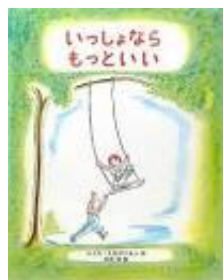
「わらべうた」と言われたら、何をイメージしますか?昔のものというイメージが強いかな?そういえばこの絵本の冒頭も「いかにも昭和」な部屋で、♪あがりめ さがりめ を歌い遊ぶ「たあちゃん」が登場します。♪あーそーぼ、♪いーれーて と鏡台の中から次々に飛びだしてくるユニークで遊び上手な動物や小道具と、たあちゃんが一緒にあそびます。♪だるまさん、♪かごめかごめ、♪なべなべそこぬけ、エトセトラ。一緒に読みあいさえすれば、親子で楽しく遊べることうけあいです。伝承の「昔あそび」は昔の遊びなのではなく、今でもとびきり楽しい「昔も今も遊び」(←わたしの造語)なのですから♡(近藤)

●『のりものあれあれ絵本』

石川重遠 作 (文化出版局)1979年/1540円

ワタクシゴトではありますが、夏休みはやっと九州へ里帰り旅行ができました。タクシー、電車、飛行機と乗り継いで、また列車とタクシーに乗って、ようやく到着。そうそう、懐かしの路面電車にも乗り、海を船でわたって…。乗り物にはお世話になりっぱなしでした。さてさて『のりものあれあれ絵本』は「じどうしゃ」「でんしゃ きしゃ」「ひこうき」「ふね」の4冊セット。手作り冊子のようなあたたかみもあいまって楽しいこと。くわえて、文章とピッタリ合った絵に、早くめぐりたくなるしかけがあるので1ページで2度おいしいのです。人を、物を、安全に快適に運んでくれる乗り物の本。と思いきや、前後の物語まで感じられるのがいっそう素敵です。(近藤)

② 年中・年長組のみなさんに。



● 『ロバくんののみみ』

ロジャー・デュボアザン・作　こみやゆう・訳(好学社)1760円/2019年  
ある日、ロバくんは水に映った自分の耳と馬の耳を比べて、「ぼくの耳はだらし  
ないったら、ありゃしない」と嘆きます。そしてロバ君は友達に、「どうすれば  
素敵な耳になれるか」を聞いて回ります。犬の助言は「耳を垂らす」。子羊は「耳  
を横にする」。でもどれもうまくいきません。かわいそうなロバ君。でも最後は  
‘そのままの自分の耳’が一番素敵なことに気がつきます。時間もかかったし、  
痛い目にもあったけど、幸せなロバ君に戻れてほっとしました。小さな人たちも  
周りと自分をくらべていろんな気持ちになることがあることなのでしょう。そんな  
とき、「今のあなたがいちばん!」と言ってあげたいです。(須藤)

● 『いっしょならもっといい』

ルイス・スロボドキン・作　木坂涼・訳(偕成社)1320円/2011年  
この絵本の冒頭の「ぼく、ひとりであそべるよ。でもね ふたりならもっとた  
のしくなる。ほらね」という文章。その通りだと思います。ふたりいれば、鬼ご  
っこができる。かくれんぼだってできる。そして、3人、4人と、もっと増えたら  
もっともったのしくなる。本当にそうですね。けれども、一人遊びが好きで  
大勢と遊ぶのが苦手だった私は思うのです。まるでカプセルに入ったように一  
人で遊ぶ時間も、なかなかいいものですって。(須藤)

● 『スイッチョねこ』

・大佛(おさらぎ)次郎 作　安 泰(やす たい) 絵　(フレーベル館)1975年  
/1650円

・大佛 次郎 作　朝倉 摂 絵　(青幻舎)2022年/1980円

スイッチョとは?…すいっちょんと鳴く虫「うまおい」のこと。きょうだいの  
中でも一番好奇心旺盛な白ねこのしろきちが、不運にもスイッチョをのみこん  
でしまうお話です。しろきちのおなかの中から「スーイッチョン!」どうなるの  
でしょう!? この本は、スイッチョの“鳴き声を聞いたあとで”読むと楽しさ倍  
増。(わたしは手ぬきして「うまおい」ググっちゃいました)。76年も前に、作  
家・大佛氏が創作した作品。二人のすばらしい画家(故人)が表現するねこの絵は、  
ねこ好きでなくてももうなるのびやかさと愛らしさ。さあ、秋の夜長、スイッチョ  
探しの親子散歩はいかが? 「♪あれ まつむしが ないている～」で始まる『虫の  
声』をくちずさみながら、そ〜っとそ〜と…。(近藤)

● 『海のおばけ オーリー』

マリー・ホール・エッツ 作　石井桃子 訳　(岩波書店)1974年/1650円  
(重版未定)

たくさんの子どもの本を楽しんできました。その中で「これは名作。これから



も長く読みつがれてほしい」と心うごかされたとびきりの1冊です。お母さんアザラシと引き離された赤ちゃんアザラシ・オーリーの、めくるめく体験と冒険の日々。どうなるオーリー、がんばれオーリー！と願うようにめくる手が止まりません。物語終盤、お母さんのいる海へ向かう地図全開のページは圧巻ですよ。マンガのコマ割りみたいな絵は白黒だから地味？長めだから心配？…いえいえ、たぐいまれな描写力の絵を丁寧にしながら読み進めれば大丈夫。母恋しさを抱えながらも楽しいことが大好きなオーリーの無邪気さには共感できるし、オーリーをとりまく人間たちの姿は苦笑いするほど正直なので、スーッと入りこめることでしょう。読後の深い満足感をぜひ味わってくださいね。子どもを愛し、人間を深く洞察する作者エッツ。この「楽しいおはなし」を通じて、親子の情・人の優しさと善意・良心をこそ子どもたちへ…という静かに燃えるような思いを、感じずにはられないのです。(近藤)

### ③ 大人のみなさんに。



#### ● 『ともだちは海のにおい』

工藤直子・作 長新太・絵 (理論社) 1650円/1984年

夜の海。空一面の星を見ながらゆるゆると背泳ぎしていたいるかは、こつんとくじらにぶつかりました。ふたりはともだちになり、少しずつお互いのことを知っていきます。二人がそれぞれ出会う様々な登場人物？(いかや、ウミガメ)もまた素敵です。そんないるかやくじらの話を聴いているうちに、疲れた心もほぐれていきます。長新太さんの絵が最高！小さな子どものそばにいる人に、この本の温かみとユーモアを届けたい。(杉本)

#### ● 『きはなんにもいわないの』

片山 健 作 (学研) 2005年/1320円 (重版未定)

近所の公園にやってきたすーくんとおとうさん。「ねえ おとうさん き(木)になって」。すーくんに言われた通り、おとうさんは木になります。それから…すーくんが(おとうさんの木に)うまくのぼれなかったときも・虫や鳥が来ても・犬がおしっこしても・女の子が根もとに座っても・すーくんがなにを言っても、木になったおとうさんは声に出さないで応えます。「きはなんにもいわないの」と。でもね、すーくんがおとうさんの木からおりたとたん、いつものおとうさんに戻って、二人は手をつないで帰ります。やっぱり好きだなすてきだな、このお父さ

んと、この父子の関係性。ことばのない対話と通じ合い。読み返すたびに、最高にすがすがしく気持ちのいい風が、心の中を吹きぬけます。(近藤)

● 『あおのじかん』

イザベル・シムレール 文・絵 石津ちひろ 訳 (岩波書店) 2016年/1870円

あなたの好きな色は何色ですか？わたしは「青」。でも、この絵本に出会うまで、「青」がこんなにもたくさんの表情を持つ豊かな色だとは知りませんでした。「おひさまがしずみ よるがやってくるまでの ひととき」…それが「あおのじかん」。青い色を持つ多様な動植物が、その生命を輝かせます。一つひとつがそれはそれは美しくて息をのむほど。見返し部分の「いろいろな あお(作者独自の青色見本)」は、それぞれのネーミングが詩的でユニーク。こなゆきいろ・にじをまぜたいろ・はればれとしたところのいろ・うんどうかいのそらのいろ…ね、素敵でしょ。たまには、自分のためだけに開く美しい絵本があってもいいんじゃないかなあ。(近藤)